

≪阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業≫ 介護サービス事業所部会【報告書】			
サービス種別	養護・軽費老人ホーム部会		
開催日時	令和7年5月22日(木) 14:00~16:30	開催場所	ケアハウス健祥会アングルシア
部会代表者	高崎	報告者	高崎
議題	①軽費・養護老人ホームの運営について ②変化する社会情勢に対する対応について		

議題①	軽費・養護老人ホームの運営について
検討した項目	(1)ケアハウス健祥会アングルシアの見学を通じた施設運営について (2)職員の人員配置と業務負担について (3)養護老人ホームへの入所について (4)身元引受人不在時の救急対応について
検討内容	(1)施設運営…ナースコールと連動した音声システムや赤外線による体動確認システムなどの見学、ICTを活用した見守り体制の導入事例について。 (2)職員の業務負担…朝の服薬介助(定員の約半数)が、業務の課題として認識された。通院介助では、短時間パートの採用が解決策の一つとして提案された。 (3)養護老人ホームの入居について…養護老人ホームの定員割れは参加施設の共通の課題である。主な原因として、「年間収入155万円以下、要介護2以下」等の入所基準が地域住民やケアマネジャーなどに十分に知られていないことが考えられるため、周知が必要。 (4)身元引受人不在時の救急対応…身元引受人がいない利用者の通院介助や救急対応がある。家族が遠方の場合、他の親類に依頼している。
結論	(1)ICT活用による効率化…ICTの導入により、職員の業務負担軽減や利用者見守りの強化に繋がっている。 (2)養護老人ホームの情報発信…養護老人ホームの入所基準が十分に周知されていないことが入所に繋がらないことの原因となっているため、ケアマネジャー等への継続的な情報提供が必要である。
残された課題	・養護老人ホームの情報発信…どのような方法で、誰に向けて情報発信を行うか等の具体的な内容の検討。
備考	

議題②	変化する社会情勢への対応について
検討した項目	(1)新型コロナウイルス感染症対策の見直しについて…5類移行後の面会制限の継続の是非、他施設の対応状況と利用者への影響。 (2)透析患者の施設での受け入れに関する課題と対応について。
検討内容	(1)コロナ対策・面会制限…5類移行後も多くの施設で面会制限を継続している一方で、面会時間や場所の制限なく面会を許可している施設がある。「入居相談時に面会制限がある施設は敬遠される傾向にある」との意見があり、養護老人ホームの定員割れの原因の1つと考えられる。 (2)透析患者の受け入れ…透析患者の受け入れについて、どこまで対応可能かが共通課題。在宅での透析患者と比較して、施設の方が健康管理面で利点があるとの意見もあるが、過度な健康管理が必要ということではなく、利用者の生活を支える視点からの適切な対応が必要。
結論	(1)面会制限の見直し…他施設の事例や入居希望者の意向を踏まえて、各施設が面会制限の解除に向けた検討を進めることが必要。 (2)多様なニーズへの対応検討…透析患者を含め、様々な健康状態の利用者を受け入れる際の対応を検討する必要がある。
残された課題	・透析患者受け入れに関する施設対応と連携体制の確立…施設での受け入れ可能な範囲、緊急時の対応、医療機関との連携強化、職員への情報共有と研修。
備考	令和7年度 取り組むべき内容の確認について、「自分らしく暮らし続けられる医療・介護連携のまちづくり」の推進を目的として、以下の内容を令和7年度に本部会で重点的に取り組むべき内容として確認した。 【日常療養支援の場面】独居高齢者の支援方法の検討・サービス事業所部会の実施・日頃からの緊急時連絡先の確認方法の整備・訪問診療を行っている医療機関の把握・地域の社会資源情報の作成および周知への協力 【入退院支援の場面】医療・介護職向けの研修案内の充実・透析患者の送迎支援についての検討・透析患者の介護施設受け入れに関する情報共有 【緊急時の対応の場面】緊急時連絡先の確認・運用方法の検討・往診・訪問診療を行っている医療機関の把握・#7199(救急安心センター事業)の周知活動・救急車要請時の判断基準(救急車の同乗基準)の確認と共有

【会議風景写真】

